

完了報告書（平成 23 年度）

提出者 加藤敦典

提出年月日 平成 24 年 3 月 31 日

【プロジェクト名】

和文 「ベトナム人女性にとってのオルタナティブな親密圏の構成原理に関する人類学と社会学の国際共同研究——婦人会とカオダイ教寺院の事例より」

英文 Alternative intimate spheres for women in Vietnam: Case studies of the Women's Association and Cao Dai temples

【メンバー構成】

研究代表者 加藤敦典 COE 研究員

メンバー

伊藤まり子 (ITO, Mariko) 国立民族学博物館外来研究員

北沢直宏 (KITAZAWA, Naohiro) 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科博士課程

ヒ・ヴァン・ルオン (LUONG, Hy Van) Professor, Dpt. of Anthropology, Univ. of Toronto

ティエン・フオン・ニン (NINH, Thien Huong) PhD candidate, Univ. of Southern California

ミン・ティ・T・チャン (TRAN, Thi Minh T.) ベトナム社会科学院 家族社会学部門 副主任

【ねらいと目的】 (600 字程度)

この共同研究では、ベトナム人女性の視点からみた、家族にかわる親密な社会空間の構成原理について考察する。具体的には、宗教団体（カオダイ教）と婦人会という、政治的位置づけの異なるふたつの組織をとりあげる。それらの活動に熱心に参加してきた女性たちのライフヒストリーを調査するため、日本、ベトナム、北米の若手研究者（人類学・社会学）が連携する。各ケースの分析から、これらの組織がもつ（１）疑似家族的な性格、（２）家族にかわる親密圏としての性格、（３）家族との対比では説明できない公共的性格を描き出す。さらに、親密圏と公共圏の境界を往還してきた女性たちの視点から、ベトナムにおける市民社会の基盤となりうる社会空間の特徴を明らかにすることで、本GCOEに貢献する。調査は各自でおこなうが、研究成果を共有するため、年末に京都大学で国際ワークショップを開催する。若手が各自の視点から研究報告をおこない、シニア参加者がそれにアドバイスをする。それにより、最終的な成果論集の作成にむけ、論文の内容をブラッシュアップしていく。

【活動の記録】

研究会・ワークショップの場合は、開催年月日、報告者と報告題等

調査の場合は、調査年月日、調査者、調査地、調査目的等

その他の活動も含めて、研究期間中の活動について簡潔に記してください。

H.23.07.02 国内班打ち合わせ（加藤、伊藤、宮沢、チャン）、京都大学

H.23.08.03 - 08.18 現地調査（伊藤）、カオダイ教ハノイ教会にてインタビュー調査

H.23.08.14 – 09.08. 現地調査（加藤）、ベトナム・ハティン省にて女性幹部のライフヒストリー調査

H.23.12.17 – 12.18 Workshop “Alternative intimate spheres for women in Vietnam,” Kyoto University

- 1) Thien Huong NINH "How Mary Became Vietnamese: Marianism Among Vietnamese Catholics in Vietnam, Cambodia, and the U.S."
- 2) ITO Mariko "Creation of 'Our Own Moral': A Case Study of the Concept of 'dao minh' and Women's Community in a Cao daist Temple in Hanoi"
- 3) KATO Atsufumi "The limits of 'chia se' (sharing) in the Women's Union: Through life histories of female cadres in a village of Ha Tinh province, Central Vietnam"
- 4) TRAN Thi Minh Thi "Social and family role of working women in transitional Vietnam"

H.23.12.19 Seminar “Current Anthropology on Vietnam,” National Museum of Ethnology, Osaka

- 1) Hy Van Luong "Social Relations in the Era of Market Economy: A Comparative Study of Northern and Southern Rural Vietnam"
- 2) Kirsten Endres "Imperious Mandarins and Cunning Princesses: Mediumship, Gender, and Identity in Urban Vietnam"

【成果の概要】（800字程度）

ベトナムの女性にとってのオルタナティブな親密圏というテーマをめぐって、日本、アメリカ、ベトナムの四名の若手人類学者・社会学者が研究成果を持ち寄り、京都大学でワークショップを開催した（12月17–18日）。討論者として、メンバーの Luong 氏のほか、Kirsten Endres 氏（マックス・プランク研究所・研究員）と宮沢千尋氏（南山大学・准教授）をお呼びした。各報告者は、宗教実践のなかの女性と、政治活動のなかの女性というふたつの領域に注目し、「ベトナム」や「親密圏」といった概念を括弧にくくりつつ、そこに見られる私的生活と公的生活の葛藤、女性同士の連帯、対抗的公共圏の形成、女性のアイコン化と国民像の形成などの論点について議論を展開した。ひとつの報告に実質的に2時間以上の時間を割り、徹底的な議論をおこなうことで、まさにワークショップと呼ぶにふさわしい、研究成果の制作現場を作り出すことができた。東京大学や首都大学東京などからもベトナム研究の専門家や家族研究の専門家の参加があり、国内外の研究者の意見交換の場を提供することができた。

翌19日には、国立民族学博物館の協力を得て「現代ベトナム人類学セミナー」を開催した。討論者のうちの二名がベトナムにおける家族・宗教・ジェンダーに関する報告をおこなった。

ワークショップとセミナーでの議論のなかでとくに注目すべき論点が四つあった。（1）私的救済行為としての信仰実践が、民族・国民イメージの創出という公共的实践に（国家による誘導ではなく）自発的に結びついていく現象と、そこでの女性性のアイコン化、（2）（ポスト）社会主義国家における、官製の間団体をもととした対抗的公共圏の形成と、そこでの制度化された国家的価値と親睦団体としての内部規範との葛藤、（3）「伝統」家族の「復興」現象、（4）ベトナム語におけるタンマツ（than mat [親密]）概念と西欧における「親密圏」概念のずれ、の四点である。

今後、この研究ユニットのワーキング・ペーパーを基軸として、英語と日本語で成果を商業出版することをめざす。そのために、現在、寄稿者や出版社との打ち合わせをおこなっている。

【通信欄】

メンバーの北沢は、現地調査の事情により、残念ながら活動に参加できなかった。

(研究代表者記入)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input checked="" type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
経費	予算額	1,100 (千円)	実績額 1,100 (千円)

Workshop “Alternative intimate spheres for women in Vietnam,” Kyoto University



Workshop “Alternative intimate spheres for women in Vietnam,” Kyoto University



Seminar “Current Anthropology on Vietnam,” National Museum of Ethnology, Osaka

